

# 伊丹福音ルーテル教会 四旬節第一主日礼拝のしおり

## 2022年3月6日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 91 編 1-2,9-10,14-16 節

いと高き神のもとに身を寄せて隠れ 全能の神の陰に宿る人よ  
主に申し上げよ 「わたしの避けどころ、砦 わたしの神、依り頼む方」と。/  
あなたは主を避けどころとし いと高き神を宿るところとした。  
あなたには災難もふりかかることがなく 天幕には疫病も触れることがない。/  
「彼はわたしを慕う者だから 彼を災いから逃れさせよう。  
わたしの名を知る者だから、彼を高く上げよう。彼がわたしを呼び求めるとき、彼に答え  
苦難の襲うとき、彼と共にいて助け 彼に名誉を与えよう。  
生涯、彼を満ち足らせ わたしの救いを彼に見せよう。」

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。  
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様は私たちのために苦しみを受けてくださいました。私たちもうち-そこから誘惑を受けます。暮らしの心配があります。苦しみを切り抜けることができるかという不安があります。自分の思いが神様のみ旨にそっているのか知りたいというもどかしさがあります。イエス様ご自身もその中を通ってくださりみ言葉によって苦しみを受けつくり打ち勝ってくださいました。どうか私たちが、様々な誘惑に対して素手でたたかわず、イエス様に信頼して打ち勝っていくことができるように導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：ローマの信徒への手紙 10章 8b- 13節

「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

## 福音書朗読：ルカによる福音書 4章 1-13節

さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食べず、その期間が終わると空腹を覚えられた。そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」イエスは、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある』とお答えになった。更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」イエスはお答えになった。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。というのは、こう書いてあるからだ。『神はあなたのために天使たちに命じて、あなたをしっかりと守らせる。』また、『あなたの

足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える。』イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』と言われていた」とお答えになった。悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。

### 讚美歌 399 番

- 1 悩む者よ とく立ちて 恵みの座に 来たれや ※天の力に 癒しえぬ 悲しみは 地にあらじ
2. 幸(さち)なき見の 慰めや くやめる身の望みや ※
3. 見よ、いのちのましみずの 御座より湧きいずるを ※ アーメン

### 説教：「人はパンだけで生きるものではない」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

先週の水曜日からイエス様の御苦しみを覚える四十日間、四旬節に入りました。イースターの日までイエス様が私たちを救うために受けてくださった苦しみを覚え、心を備えていきます。

私たちの人生にはたくさんの試練や誘惑があります。避けることはできません。内側からこみ上げてくる悪い思いがあります。人々の誘いや脅迫があります。そこにいるということで受ける災難や被害、立場上追い込められる苦しみがあります。果敢に自分を信じて挑戦したのに道半ばで襲ってくる挫折や絶望、人生の目的がわからないで生きなければならないという虚しさや寂しさや無気力、人が信じれない、受け入れられない、思いが伝わらないという人と一緒に生きることの難しさがあります。私たちの人生の試練や誘惑は数え上げればきりがありません。

イエス様は私たちの救い主としてクリスマスにお生まれになり、バプテスマのヨハネから洗礼を受けて私たちと同じ立場にたってください、そして今や十字架でクライマックスを迎える苦しみや辱めを受けながら、私たちの身代わりとなってお自分のいのちをおさげくださる道を歩まれます。私たちの罪を赦して、新しい神の子としてのいのちを与えるためです。

そこで聖霊はイエス様の公けの生涯のはじめに荒野へ導きました。そこでイエス様は厳しい試練に会いました。聖書によると、四十日間の孤独と絶食との中で悪魔のあらゆる誘惑をお受けになりました。それは救い主イエス様の姿です。試練や誘惑にいつも悩まされている私たちと同じ試練や誘惑にさらされてくださったということです。また、悪魔の最大限の努力です。自分を滅ぼして人々を救おうとするためにこられたイエス様の歩みの出鼻をくじこうとしました。

イエス様はどのような誘惑に会われ苦しまれたのでしょうか。イエス様はどのように誘惑に打ち勝ってくださったのでしょうか。イエス様の歩みは私たちにとってどんな意味があるのでしょうか。ルカによる福音書4章では、イエス様が三つの誘惑に会われたことが記されています。

まず、悪魔は空腹の極みを経験しているイエス様に「この石をパンになるように命じてみよ、神の子だったらそれは簡単だろう」と誘惑しました。悪魔はイエス様が神の子と知っていました。そして空腹なら自分の力を発動して食べ物をつくったらどうだ、という誘惑をしたのです。イエス様は人々の信仰に役立つなら水を葡萄酒に変えられたこともあります。神の御子であるイエス様には石をパンに変えることは簡単なことでした。ではこの誘惑の本質は何でしょう。

それは試練の中にいるときに私たちが願い祈ること、つまり「神様、苦しいです。このこと、あのことを解決してください。周りのことが解決したら私は苦しみから解放されます」という願いです。悪魔はおなかかすいているなら食べ物をつくって食べたらいいじゃないか、単純なことじゃないか、と誘惑しました。体のことが解決したら心は救われるという前提です。けれどもイエス様の救いの方向は反対です。人はパンだけで生きるものではない、とおっしゃいました。環境が私を苦しめているので、環境を変えてほしいと願うではありません。むしろ私を赦して新しくしてくださるとどんな環境にも持ちこたえて、環境を感謝し、環境を変えていくことになると言われます。神様のみ言葉によって魂が養われ、自己中心で欲深い私たちの罪が赦されて、イエス様が内につくってくださる神の子としての新しいいのちに生きるようになることが先決なのです。

もっとお金があつたら、もっと私に能力があつたら、もっとよい時代に生まれていたら、もっとよい人に囲まれていたら幸せになる、というように周りの状況がかわったら私は楽になると考えていませんか。周りの人がかわったら私は自由になるとか、あのときもっとこうなっていたらよかったのにという過去の無念さから解放されたら希望を持てる、というように私たちは追い詰められています。かつてモーセに率いられて荒野を40年間さまよったイスラエルの民も、食べ物がない、飲み物がないと言って不平と不満に心が覆われました。しかしイエス様の救いは、私たちを赦し、私たちにいのちを与えることです。

イエス様は誘惑に会って下さいました。そして悪魔の声に聖書のみ言葉によって打ち勝ってくださいました。人はパンだけで生きるものではない、というのは申命記8章3節のみ言葉です。人が生きる、ということは、単に肉体的な健康が保証されていればよいということではない、という深い意味を教えています。自分中心でわがままな私がどれほど元気であっても、あとからあとから訪れる多種多様な試練に打ち勝つことはできません。当時、ローマ帝国と言う強い大きな国の支配下にあつて苦しんでいた民は、ともすると自由になりさえすれば幸せが来ると思いがちで、救い主にはダビデ王のような強大な国を再びつくってくれることを期待しました。けれどもイエス様が人々のためにお与えになる救いは、自己中心でわがままな心のままで強大な国の国民となるという、状況が変わればまた奪われてしまうような不安定な救いではありません。罪を赦し、神の子とする確かな救いです。

自分の罪やけがれに対する神様の恐ろしい裁きを、イエス様が十字架の死によって身代わりに受けてくださって、私たちはそのまま神様からイエス様に免じて正しく赦されます。そして

神様に愛され喜ばれる神の子とされて、新しいいのちを生きるのです。これがイエス様を救い主として信じて洗礼にあずかる者には例外なく与えられる御救いです。イエス様はこの救いを完成するために、私たちのために苦しんでくださいました。私たちのためのイエス様の御苦しみが無にしないためにも、罪を悔い改めてイエス様を信じましょう。いろいろな試練や誘惑の中で、神の子としての希望と喜びによって、腹を据えて耐え忍ぶ心が強められ、人と共に苦しみ、敵を愛し祝福を祈りつつ、神様のみ旨にふさわしいように環境を変えていく希望と使命が与えられます。それも自分の持ち前のたよりない、自信のない、続かない力や情熱ではなく、イエス様が与えてくださるいのちからほとぼしり出る熱い思いが私を動かしていくのです。

悪魔の第二の誘惑は何でしょうか。悪魔は一瞬のうちに世界のすべての国々を見せて「わたしをおがむなら、この世の一切の権力と繁栄とをすべてあなたに与える」とイエス様に言いました。強烈な誘惑ですね。空腹を満たすパンとは別次元の誘惑です。権力と繁栄は魅力的です。自分の好きなように生きて、何不自由なく豊かな生活をしたい、という誰の心にもある欲求です。つまるところ、大げさに言うとこの権力と繁栄を手に入れるために、人は苦勞して人よりも勉強し、下げたくない頭を下げて、自分と家族を守って生きているのではないのでしょうか。権力を持つと人との関係が変わります。劣等感に苦しむ必要はありません。自らの思いが実現して、豊かに生きていくというのは、だいぶん前にあきらめていたような究極的な自己実現の幸せのようにも思います。

イエス様はそのような悪魔の誘惑に対して、再び聖書のみ言葉をもって対応されました。「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」と書いてある、と申命記6章13節のみ言葉をもってお答えになりました。モーセが十戒をいただいたときの民への言葉です。パンの誘惑のように環境が変わるといふ誘惑ではなく、今度は自分が権力と繁栄を持つという誘惑です。イエス様はこれも本当の幸せではないということをお教えくださいました。権力を持つてはならない、繁栄を求めてはならない、いつも虐げられて貧しく生きていかなければならない、ということではありません。権力であれ、繁栄であれ、またほかのどのようなものでも、すべてのよいものは神様からいただく贈り物です。神様を無視して、競争して得るにしても幸運にも与えられるにしても、自分で良いものを得ようとし、また得たと考えていく間違いをイエス様は見ておられます。神様は悪魔のように自動的に権力や繁栄を与えるとは言われません。あなたに今、あなたの立場で果たしていく使命と約束を与えてくださいます。家庭であなたの使命があります。職場や社会で、属しているグループや共同体の中で、あなたに託された尊い使命があります。教会でもイエス様にあつて互いに助け合い励まし合っていく使命があります。与えられた使命を神様からいただく喜びと創意工夫によって、人々のために心を入れてひとつひとつ丁寧にそして大胆に果たしていくところに私たちの毎日があります。

所詮この世は悪の支配下にあるのだから、適当に身を守りながら自分の意思を通していかなければ餌食になってしまう。悪魔はこの世を支配していると豪語しています。悪魔の誘惑にそそのかされて、自分可愛さのあまり自分中心に人を出し抜き、ねたみに満たされたり恨みにおも

ったりして、復讐をしたり踏み台にしたりして権威を得たり繁栄を得たりすることはあつてはならないことなのです。

イエス様はそのような欲望を退けました。そして、人々の心にある罪の性質をご自分が担って十字架で死んでくださいました。私たちの自分で権力と繁栄を求める罪を赦して、神様からいただいた使命と約束に生きる新しい命を与えるためです。イエス様はそのために苦しみ、救いを達成してくださいました。

悪魔はイエス様を執拗に誘惑しました。イエス様が救いをなしとげることを全力で阻止しようとしています。第三の誘惑はエルサレムの神殿の屋根の端にイエス様を立たせて、み言葉に「あなたを守らせる」とあるのでここから飛び降りてみよ、と誘惑しました。悪魔は詩編 91 編 11-12 節のみ言葉を引用しています。もちろんイエス様は海の上を歩き、変貌の山では雲に包まれてモーセとエリヤと語り合ったお方です。飛び降りても神様がみ使いを送って助けてことはその通りです。しかしみ言葉を用いて神様を服従させようと考えていた悪魔に、イエス様は「あなたの神である主を試してはならない」という申命記 6 章 16 節のみ言葉をもってお答えになりました。神様が愛するあなたのために与えてくださったみ言葉の約束を逆手にとって、神様に全面的に信頼をして歩むのではなく、自分の思いを遂げるために神様をしもべのように使おうとする心です。思い通りの時期に助けてくださらないように見えたら「神様はいるのだろうか」と疑ったり、また自分の思い通りに助けて下さらなかつたら「神様に従うんじゃないか」と思う心です。悪魔は神様に全面的にお任せして安心する心が奪います。自分の気分や判断をもとに、神様を従わせるのではなく、神様の御心にお任せして、耐え忍ぶべき時は耐え忍び、悪に対して立ち向かうときは立ち向かうのです。神様を信頼できない思いにイエス様はみ言葉をもって打ち勝たれました。神様を試みることの誘惑にイエス様は打ち勝って、ゲッセマネの園でも父なる神様のみ旨のままに十字架の苦しみをお受けになる祈りのときを持たれました。

イエス様は私たちのために、私たちと同じ誘惑に会って苦しんでくださいました。その苦しみを通して、私たちの救いを成し遂げてくださいました。イエス様の御苦しみを感謝し、イエス様に信頼していきたいと思います。また、私たちは誘惑に会わない日はありません。第 1 ペテロ 5 章 8 節でも敵である悪魔が吠えたける獅子のようにだれかを食い尽くそうと探し回っています、と警告されています。誘惑に会うと、自分の内にしつこく残っている肉の思いに気づきます。「我らを試みにあわせず悪より救い出してくださいませ」と主の祈りによって祈りつつ歩みましょう。ヤコブの手紙 4 章 7 節にあるように「神に服従して悪魔に反抗しなさい。そうすれば悪魔はあなたがたから逃げて」いくのです。イエス様に罪赦され、新しい命をいただいています。イエス様の御苦しみを覚えつつ神の子としての新しい命を生きてまいりましょう。

イエスは、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。ルカによる福音書 4 章 4 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### **讚美歌 502 番 献金 献金感謝の祈り**

1. いともかしこし イエスの恵み 罪に死にたる 身をも活かす  
主よりたまわる 天(あめ)の糧に 飢えし心も 飽き足らいぬ  
※世にある限り、きみの栄えと いつくしみとを 語り伝えん
2. 救いの恵み 告ぐるわれは 楽しみあふれ 歌とぞ なる  
滅びを出でし この喜び あまねく人に 得させまほし
3. くすしき恵み あまねく満ち あるに甲斐なき 我をも召し  
天(あま)つ世継ぎと なしたまえば たれか洩るべき 主の救いに **アーメン**

### **主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### **頌栄：讚美歌 543 番**

主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああみ栄えよ **アーメン**

### **祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

### **後奏**